



適用及び使用方法

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本 剤 の 使用回数	使用方法	1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数
りんご	つる割れ軽減	3000～5000倍	300～600ℓ/10a	満開20～30日後	1 回	立木全面散布	3 回以内
	収 穫 前 落果防止	1000～2000倍		収穫開始予定日の21～4 日前	2 回以内		
	新梢伸長抑制	2000倍		二次新梢伸長時	1 回	立木全面散布又は枝別散布	
なし			新梢伸長時				
	収 穫 前 落果防止	1000～2000倍	200～300ℓ/10a	収穫開始予定日の21～4 日前	2 回以内	立木全面散布	2 回以内





⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 本剤の所要量を所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布する。
- 本剤は植物ホルモン剤であり散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさける。
- 散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。
- 使用の際は薬液が葉先から滴り始める程度にむらなく、樹全体に丁寧に散布する。
- 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにする。
- 極端な高温時の散布はさける。
- りんごに使用する場合は次の事項に注意する。
 - ①摘果目的でNAC剤を使用した場合は、NAC剤の効果（果実軸部分の退色、軽い接触での落果等）を確認したのちに本剤を処理する。ただし、本剤の使用時期を逸しない。
 - ②収穫前落果防止を目的に2回使用する場合、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行う。
 - ③つる割れ軽減を目的に使用する場合は、気象条件等により果実肥大が抑制される場合があるので注意する。
 - ④新梢伸長抑制を目的に使用する場合、樹勢が旺盛な樹には効果が劣ることがあるので注意する。
 - ⑤本剤を散布した後に、葉が黄化したりしおれたりする場合があるが、本剤の生理活性の現れであり、果実の生育には影響がない。
 - ⑥下記に記載した品種以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(効果の確認されている品種)
 - ・「収穫前落果防止：きおう、つがる、王林、紅玉、陽光」
 - ・「つる割れ軽減：ふじ、早生系ふじ」
 - ・「新梢伸長抑制：ふじ」
- なしに使用する場合は次の事項に注意する。
 - ①収穫前落果防止を目的に2回使用する場合、収穫開始予定日の21～14日前に1回目の散布を行い、薬効を確認してから必要に応じて1回目の散布7～10日後に2回目の散布を行う。また、散布した後に葉が黄化したり落葉する場合があるが、果実の品質に影響は認められない。ただし、品種「秀玉」では落葉が著しい場合があるので使用しない。
 - ②新梢伸長抑制を目的に使用する場合、果実肥大期以降に散布すると効果が劣ることがあるので、時期を逸さないよう注意する。
 - ③下記に記載した品種以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分に確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(効果の確認されている品種)
 - ・「収穫前落果防止：王秋、幸水、おさゴールド、ラ・フランス、ル・レクチエ」
 - ・「新梢伸長抑制：幸水、夏さやか、あきづき」
- 極端に樹勢の弱い樹では本剤の使用をさける。
- 使用後の散布器具等は十分洗浄する。
- 本剤は植物ホルモン剤であるので、使用に際して使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。

⚠ 安全使用上の注意



- 誤食などのないように注意する。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
使用後は洗眼する。
- 散布の際は農薬用マスクなどを着用する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…該当なし

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

